

各分野の産業人材育成に取り組んでいます

県教育委員会では、社会経済の進展に対応し、産業の振興など社会や地域の発展に貢献できる人材を育成するため、産学官が連携して、工業、商業、農業をはじめとした、各分野の産業人材育成を推進しています。

「ものづくりマイスター」による実技指導を行っています

産業の各分野において優れた技能と経験を持つ「ものづくりマイスター」（熟練技能者）に、直接実技指導を受けました。

この経験は、高度な技術を持っているその道のプロの方々から、ものづくりの基本を学ぶ、またとない貴重な機会となっています。



「鑄造実習」の様子（佐賀工業高等学校）



「製パン製造技術」の指導（高志館高等学校）

各分野の競技会・コンテストの入賞者を紹介します

各分野の産業人材育成にあたって、その成果を発表する場のひとつとして競技会やコンテストがあります。

今回、「第25回全国産業教育フェア三重大会 さんフェアみえ2015」が平成27年11月に開催され、各分野のコンテストで優秀な成績を収めた参加者を紹介します。

全国高校生クッキングコンテスト



「家族で食べるご飯にあう和食!!」というテーマで、参加者の郷土の特産物を使った夕食を考え、書類審査を通過した8チームが実際に調理を行い、その技術や出来映えを競いました。

このコンテストに牛津高等学校食品調理科から坂井幸さんと角田鈴音さんが出場し、最優秀賞である文部科学大臣賞を受賞しました。なお、牛津高等学校からの受賞は、前回に続いて3回目の受賞です。

第4回全国高校生介護技術コンテスト



全国から選ばれた11校の生徒が2人1組で、要介護者役の審査員をベッドから車いすでテーブルへ移動させたり、上着を着せたりするなどの介護技術を競いました。

このコンテストに嬉野高等学校総合学科社会福祉系列3年生の松尾渚さん、山口玲奈さん、瀬頭沙希さんが出場し、最優秀賞である文部科学大臣賞を受賞しました。なお、嬉野高等学校からの受賞は2年ぶり3回目の受賞です。

さがを誇りに思う教育を推進しています

離島に行って
佐賀のよさに
ふれまSHOW!!

県教育委員会では、子どもたちの豊かな感性を育むとともに、ふるさと佐賀への愛着と理解を深め、そのよさを実感し、誇りに思う気持ちを育てるために、佐賀の自然や歴史、文化などを学び、またそれらに触れ親しむ体験活動を推進しています。

今回、高島、加唐島、小川島と馬渡島の4島を舞台に、それぞれの島で実施する交流学习や体験活動等を通して児童生徒の生きる力を育むとともに、島の良さを見つけることで自分の住む地域の魅力に気づき、地域の行事へ積極的に参加することで、もっと自分の住む地域を好きになってもらうことを目的として、「子ども離島交流プロジェクト」を実施しました。各島の子どもたちは自信を持って自分の島の紹介を行い、島外の子どもたちはその声に熱心に耳を傾け、交流を通じて島のよさを実感することができました。

「子ども離島交流プロジェクト」の様子を紹介します！



高島小学校のみんなが握手でお出迎え。

全国各地、海外からも観光客が訪れる自然豊かな島の名所を、クイズを交えながら案内してくれました。

また、スポーツやスケッチでの交流も楽しみました！

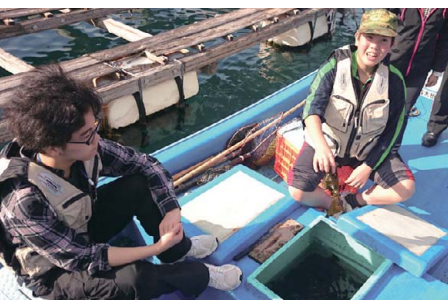


【参加者の感想】・友達もたくさんできたし、高島のいいところを見つけられたのでよかったです。
・高島のみなさんのおもてなしが嬉しかったです。グランドゴルフではみんなニコニコして楽しかったです。

加唐島 10月31日(土)



アワビやウニへのえさやり体験、魚のさばき方体験等での交流を通して、島の魅力を十分満喫しました！加唐小中学校の子どもたちと仲良く活動できた夢のような1日でした。「また来年も来たい！」という声がたくさん聞かれました。



【参加者の感想】・最初ははずかしかったけど、途中からはいろんな人と話せるようになったので嬉しかった。
・みんなとうまくできるか心配だったけど、話もするようになったのでとても楽しかった。

「鯨とイカの島」小川島。釣り体験や魚の加工を中心に交流しました。
歴史ロマンとおいしい魚介を堪能し、島の人の温かい心に触れることができました。忘れられないワクワク、ドキドキの小川島体験になりました。

小川島

11月7日(土)



【参加者の感想】

- ・小川小中学校の人たちと仲良くなれてよかったです。かまぼこ作りも楽しかったです。
- ・釣りをしたことが楽しかった。1匹も釣れなかったけど、投げ方を教わりうまくできてよかったです。

馬渡島

11月7日(土)

馬渡小中学校の子どもたちが港で整列してお出迎え！！自然がいっぱいの馬渡島。汗をかきながら、仲良くグループで坂道を登りました。教会を見学したり、アワビ養殖体験をしたり、あっという間の1日でした。馬渡小中学校の子どもたちの心を込めた合唱の贈り物は、とても感動的でした。



【参加者の感想】

- ・特にあわび養殖体験が楽しくて、あわびが昆布を食べるのにびっくりしました。
- ・登山（教会までの道）で仲良くなった友達とおしゃべりできたので、また馬渡島に参加したい。

【参加児童生徒の保護者の感想】

- 自分から「行ってみたい！」と言ったのが初めてで、一人で友達をつくりたいという気持ちに驚きましたが、すごく成長して帰ってきたように思います。いろんな体験で成長できるというのは、とても素晴らしいことです。
- 親がいろいろと聞く前に、島での体験や楽しかったことを自分からたくさん話してくれました。島のことや島の皆さんのことにとても魅力を感じたようでした。たった1日ではありましたが、とても充実した時間を過ごせたようなので、参加させて本当によかったと思います。
- すごく楽しかったようで、帰ってからしばらく話が止まりませんでした。島の方たちと素敵な交流ができ、いい体験ができたようです。いい思い出をありがとうございました。

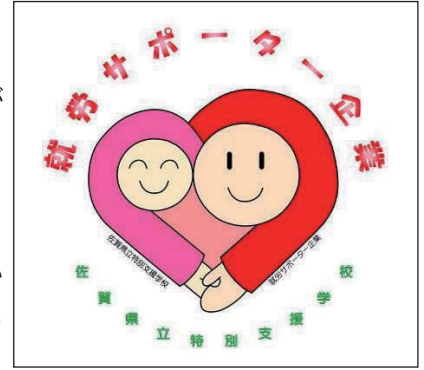
特別支援学校での取組を紹介します

佐賀県立特別支援学校就労サポーター企業制度

県教育委員会では、県立特別支援学校と企業等との連携・協力を強化しながら、生徒の自立と社会参加に向けた就労支援に取り組んでいます。

平成27年3月には、より多くの企業等との連携・協力の輪を広げるため、「佐賀県立特別支援学校就労サポーター企業制度」を立ち上げました。

平成27年11月現在、県内の51事業所にサポーター企業として登録いただいておりますが、より多くのサポーター企業等と連携・協力するため、今後とも様々な取組を行いながら職業教育や就労支援の充実を図っていきます。



サポーター企業のロゴマーク
(県立特別支援学校生徒の作品)

企業等との連携による取組例です

企業現場における作業学習



年間を通して、計画的に企業現場で働く経験を積み重ねることで、生徒自身が将来の職業生活への意識や意欲を高め、働くことの意義や職場でのルールやマナーを身に付けています。

ジョブティーチャーの派遣



サポーター企業等の職員の方を定期的に学校へ派遣してもらい、学校で取り組んでいる作業学習やキャリア教育に指導・助言していただくことで、就労に向けた技能や意欲の向上を図っています。

詳しくは

県教育政策課 ☎0952(25)7475 FAX 0952(25)7409 ✉kyouikuseisaku@pref.saga.lg.jp

「心のテレホン」にいつでもご相談ください

県教育委員会では、児童生徒や保護者の皆さんが学校生活や子育てなどで抱える不安や悩みに対して、電話相談窓口を開設しています。

専任の相談員が365日24時間体制で、日ごろ不安や悩みを抱える皆さんのつらさや苦しさを受け止めます。

ご相談の際には名前を出す必要はありません。まずはお電話をください。

【受付時間】 365日24時間対応

【対象】 小学生、中学生、高校生、保護者など

【電話番号】 ※ お近くの番号にお電話ください

- ・佐賀局 0952-30-4989
- ・神埼局 0952-52-4989
- ・唐津局 0955-73-4989
- ・武雄局 0954-22-4989
- ・鹿島局 0954-62-4989

【相談内容】

- ・児童生徒の不登校やいじめ等について
- ・学校内外における児童生徒の非行防止について
- ・家庭や地域社会における児童生徒の日常生活について
- ・その他の児童生徒の悩みや問題行動等について



詳しくは

県学校教育課 ☎0952(25)7363 FAX 0952(25)7286 ✉gakkoukyouiku@pref.saga.lg.jp

留学や海外研修旅行をしたい生徒を応援しています

グローバル化が加速する中で、豊かな語学力や異文化体験を有する人材の育成が求められています。

県教育委員会では、中・高校生を対象に、留学や海外研修旅行に対する様々な支援を行っていますが、その中から、今回、平成26年度に県の助成を受けて海外留学してきた生徒の声を紹介します。

伊万里高校2年 中島 英さん(デンマーク)

初めての留学で、私がなぜこの国を選んだのか。

なんとなく選んだだけでした。

でも、この1年間でその答えを

ホストファミリーが導き出してく

れました。まず、デンマーク語習

得の手始めは、7歳のホストシス

ターと絵本を読んだことです。そのおかげで言語を覚え

学校の友人が増え、パーティーや映画に行くようにな

りました。その友人と今でも連絡を取り合っています。

また私に未知の世界を見せてくれたのはホストママ

とパパでした。彼らは私に本当の娘のように接してく

れました。私の母に「あなたの娘を1年間育てさせて

くれてありがとう」と言ったホストママの言葉はとて

も印象に残っています。また、私が空手を始めたのも

ファミリーの影響です。私の練習に付き合ってくれ、2

大会で入賞することができました。

留学する前、家族に反抗的な態度をとっていました



が、留学する中で家族の愛と

地元のすばらしさにも気付い

ました。そして、家族との時

間を大切にしたい、地元のため

に何か伝えることはできな

いかと考えるようになりました。今取り組んでいるの

が、有田の町おこしを高校生で行うという、「有田ユ

ナイテッドチルドレン」の活動です。今は、メンバー

集めをしているところです。学校では、生徒会で生徒

全員が活躍できる場を作るために、新しい企画を考え

ています。取り組んでいるものの規模は小さくても、

留学で培った根気強さを武器にがんばっていきます。



武雄高校2年 中尾 正徳さん(スイス)

姉が留学すると聞いて、自

分もしたいと軽い気持ちから

言った一言が私の人生を変え

ることになりました。

その一言を聞いた母が高校

生の交換留学について調べ、資料を取り寄せ、あとは私

の意志一つで飛び立terる状況となっていました。私は半

ば親に背中を押されるようにスイスへと旅立ちました。

スイスでは、日本では知りも得なかったような事に毎

日出会い、そのめまぐるしさに日々圧倒されていました。

かつては電車のアナウンスで常に3カ国語耳にする

機会も無かつたし、冬には毎週末のようにスノーボード

をしに家族と出かけることもありませんでした。このス

イスという異国がことごとく自分を取り囲んでいた壁を

壊し、これまで見えなかった世界を見えるようにしまし

た。自分は今まで世界のほんの一部で生活してきたこ

と、そしてスイスで生活した今も、数多くある国の中の

2つしか知らないことを知り、これまで以上に世界とい

うものに愛着と興味と親近感を持つようになりました。

また、1年間、日本でこれまで築き上げてきたことから

一旦離れ、言葉も文化も知らなかった全く新しい地でゼ

ロから生き、色んな

経験を積むことで、

自分にも自信がつ

き、他ではない自分

が見えてきたように

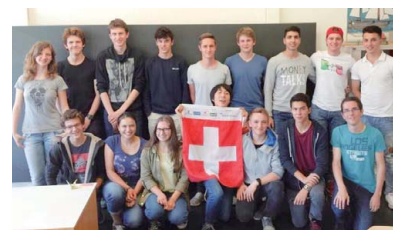
思えました。

私は、今回の留学の経験を通して得たものを、少しで

も他のみんなと共有して、そこで自分も止まることなく

今まで身につけたものと共に、まだ見ぬ新しい世界に挑

戦していきたいと思うようになりました。



Facebookで随時、留学している生徒を紹介しています

<http://www.facebook.com/saga.global.jinzai>

留学や海外研修旅行の支援制度を紹介します

佐賀県中・高校生海外留学等助成金(平成27年度)

◆ 中・高校生の研修旅行 10万円

研修期間が2週間以上3ヶ月未満

研修費用の自己負担が10万円以上のも

◆ 高校生の海外留学 50万円

留学期間が3ヶ月以上のも

※いずれも保護者が佐賀県内に居住していることが条件です。

留学等支援の流れ

12月 留学ガイダンス

2~3月 海外留学等助成金説明会

4月 留学等助成金募集要項配布

5月 留学助成金受付開始

6月 海外研修助成金受付開始



留学ガイダンスの様子

学校生活のさまざまな場面でICTを利活用しています

今日の高度情報化、グローバル社会の中において、国の「教育の情報化ビジョン」や「新学習指導要領」など、教育の方向性を示す指針では、「教育の情報化推進」が掲げられており、教育の情報化は、今後ますます重要視される情報活用能力や情報リテラシー等の「21世紀型スキル」の育成にもつながるものとして期待されています。

こうした中、県教育委員会では、新たな時代に対応した教育の実現に向け、市町教育委員会と連携し、全県規模でICT利活用教育に取り組んでいます。

特に、昨年度（平成26年度）からは、県立高校で一人1台の学習用パソコンを導入し、授業や自宅学習で活用していますが、この学習用パソコンでは、「デジタル教材の音声機能によるリスニングの学習」や「化学の実験を動画で確認しながらのレポート作成」などを行うことができるようになり、生徒の興味・関心を高め、理解を深めるのに役立っています。

今後とも、児童・生徒や保護者、県民の皆さんのご意見を広く伺いながら、引き続きよりよい教育の実現に向け、ICT利活用教育の推進に取り組んでいきます。

佐賀県ICT利活用教育の取組はこちらで紹介しています

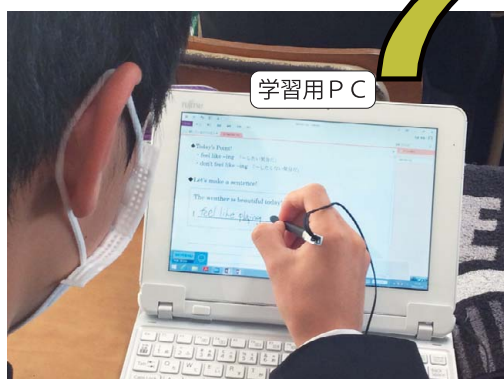
(https://www.pref.saga.lg.jp/web/kurashi/_1018/ik-ict.html)

佐賀県 ICT教育

検索

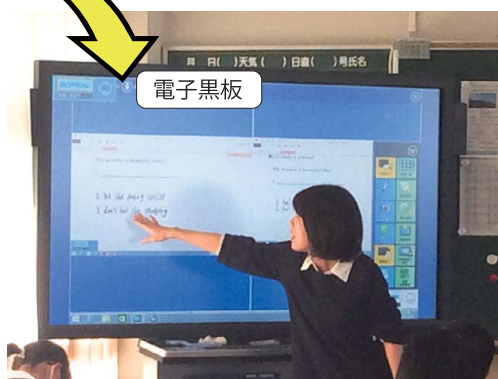
※文部科学省「教育の情報化」Webサイトもご覧ください。

学習用パソコンを使った学校生活の様子を紹介します



授業中 (教室)

生徒がパソコンに記入した解答を電子黒板に映し出すことができます。複数の生徒の解答を映すことで、それぞれの解答を見比べ、学びをより深めることができます。



実習中 (野外)



野菜をカメラで写し、これまでの生育状況を見比べることができます。

部活動中



先輩と自分のフォームを動画で撮り、見比べて改善することで上達に役立っています。

佐賀県高等学校総合文化祭が行われました

第27回佐賀県高等学校総合文化祭（県総文祭）が10月6日から11月15日の41日間にわたって行われ、期間中は、県内各地で「伝統芸能」や「美術・工芸」、「弁論」などの専門部による発表や展示が行われました。総合開会式では、佐賀北高校2年生の小宮昂大（こみやこうた）生徒実行委員長から、「総文祭は輝きが生まれる場、一人ひとりの輝きで未来を照らし、この輝きを全国大会につなげていきたい。」との思いが語られました。

4年後の平成31年には、佐賀県で全国高校総合文化祭が開催され、例年、全国から約2万人の高校生が集まります。



参加校の校旗が掲げられた総合開会式（佐賀市文化会館）
総合開会式には、48の学校が参加しました



弁論大会の様子（グランデはがくれ）



多彩な書道作品の展示（佐賀県立博物館）

詳しくは 県学校教育課 ☎0952(25)7227 FAX 0952(25)7286 ✉gakkoukyouiku@pref.saga.lg.jp

季節性インフルエンザに気をつけましょう

季節性インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気で、のどの痛み、咳、鼻水といったかぜと同様の症状も見られますが、38度以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などの症状が突然現れるのが特徴です。

佐賀県では、10月12日～10月18日の週に、今シーズン（平成27年～平成28年）初となるインフルエンザの患者報告がありました。

例年、12月中旬頃からインフルエンザの流行が始まります。日頃から十分な睡眠とバランスのよい食事を心がけ、咳の症状があるときはマスクを着用するなど、感染拡大防止に努めましょう。



インフルエンザにかかったら

- 具合が悪ければ早めに医療機関で受診しましょう。
- 安静にして休養をとりましょう。特に、睡眠を十分にとることが大切です。
- 水分を十分に補給しましょう。
- 咳やくしゃみ等の症状のある時は、周りの人へうつさないように、マスクを着用しましょう。

インフルエンザを予防するには

- 流行期間中は人ごみに行くのを避けましょう。
- 石けんでのこまめな手洗いを心がけましょう。
- 十分な栄養と休養をとりましょう。
- こまめに部屋の換気をしましょう。
- インフルエンザの予防接種を受けましょう。

詳しくは 県学校教育課 ☎0952(25)7234 FAX 0952(25)7286 ✉gakkoukyouiku@pref.saga.lg.jp

県内で初めて「三重津海軍所跡」が世界遺産に登録されました

三重津海軍所跡が「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産の一つとして世界文化遺産に登録されました。

佐賀県内からは初の世界遺産であり、日本国内では19件目の登録となります。

三重津海軍所跡は、江戸時代の終わりに佐賀藩が洋式艦船による海軍教育を行った場所で、艦船を製造し、修理を行う施設もありました。ここでは、日本初の蒸気船となる「凌風丸（りょうふうまる）」が造られています。



三重津海軍所跡全景（写真中央）



ドライドックの木組み

発掘調査では、ルツボ炉などの金属加工に関連する遺構や国内で最も古い木組みのドライドック（左写真）が発見されています。

現在、これらの遺構は埋め戻されていますが、佐野常民記念館の「三重津海軍所跡インフォメーションコーナー」では発掘調査の様子が解説パネルで紹介されています。また、現地でも三重津海軍所跡の当時の様子を「VRスコープ」による映像などで見ることができます。ぜひ、佐賀の貴重な宝である三重津海軍所跡にお越しください。

（写真：佐賀市教育委員会 提供）

新しく指定された県内の文化財を紹介します

こちらは、平成27年4月から10月の間に国や佐賀県が指定を行った文化財です。

これらの文化財は、佐賀県の歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた私たちの貴重な財産です。

国の天然記念物	佐賀県重要文化財
 <p>■伊万里湾カブトガニ繁殖地 【所有:国(公有水面) 管理:佐賀県】</p>	 <p>はぶいせきしゅつどふみすき ■土生遺跡出土踏鋤 【所有:小城市】</p>
<p>カブトガニは剣尾綱（けんびこう）カブトガニ目カブトガニ科に属する節足（せつそく）動物で、生きた化石とも呼ばれ、古生物学や進化生物学上、貴重な動物です。</p> <p>国内での絶滅が懸念される中、伊万里湾内奥部（伊万里市木須町など）では、カブトガニが産卵する砂浜とその幼生が生育する干潟が良好な状態で維持されており、カブトガニが安定的に繁殖しています。</p>	<p>これは、小城市の国史跡「土生遺跡」から出土したものです。畑を耕す道具と考えられ、柄・鋤身・鑢・楔の木製の四部材から構成され、組み上がった状態で出土しました。</p> <p>部材の一部が韓国の遺跡から出土していますが、全体の形状が明確に判明する例としては、日韓を通じて唯一であり、ともに出土した土器から弥生時代中期前半に使用していたことが分かる最古の出土例として貴重な資料です。</p>

詳しくは

県文化財課



0952(25)7232 FAX 0952(25)7321



bunkazai@pref.saga.lg.jp

●「教育だより きらめく人づくり」では、皆さんからのご意見、ご感想をお待ちしています。

あて先



佐賀県教育庁 危機管理・広報グループ

〒840-8570 佐賀市城内一丁目1番59号 ☎0952(25)7398 FAX0952(25)7281

URL: <http://www.pref.saga.lg.jp> ✉kyouiku-kikikouhou@pref.saga.lg.jp

※佐賀県教育委員会が収集した個人情報、「佐賀県プライバシーポリシー及び行動プログラム」に従い、各事業の実施以外の目的で使用することはありません。